

福島第二原子力発電所 プラント状況等のお知らせ
(8月3日 午後3時現在)

平成23年8月3日
東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

平成23年3月11日、当社・福島第二原子力発電所1～4号機（沸騰水型、定格出力110万キロワット）は、定格熱出力一定運転中のところ、東北地方太平洋沖地震により、午後2時48分、原子炉が自動停止しました。（3月11日 お知らせ済み）

3月15日午前7時15分、4号機の原子炉が冷温停止状態となり、これにより当所の全号機（1～4号機）が冷温停止となりました。（3月15日 お知らせ済み）

8月3日午後3時現在、1～4号機は冷温停止中です（各号機の状況は別表参照）。引き続き、各号機の冷温停止状態のより一層の安定化に努めてまいります。

<下線部が新規事項>

○モニタリングポスト定期点検

発電所敷地境界に設置されているモニタリングポスト（計7基）のうち、No. 1～6の6基について、7月29日から定期点検を実施しています。

点検作業中は、当該モニタリングポストによる放射線量の測定ができなくなりますが、残り6基のモニタリングポストで測定・確認を継続します。

なお、天候等により、点検実施日が変更となる可能性があります。

(定期点検作業実績)

No. 6 : 7月29日 午前9時31分～午後6時30分

No. 1 : 8月2日 午前9時31分～8月3日 午後2時30分

※モニタリングポストの点検前後において測定値に若干の変動が認められましたが、計測装置の誤差の範囲内で調整を実施したためであり、環境の放射線量の変化や検出器の異常によるものではありません。

・ 次回ののお知らせは、明日の午後3時を予定しております。

以 上

| | 1号機 | 2号機 | 3号機 | 4号機 |
|-----------------------------|--|--|---|--|
| 原子炉停止機能 (止める) | ○原子炉自動停止 (3/11 14:48) ○全制御棒全挿入中 | ○原子炉自動停止 (3/11 14:48) ○全制御棒全挿入中 | ○原子炉自動停止 (3/11 14:48) ○全制御棒全挿入中 | ○原子炉自動停止 (3/11 14:48) ○全制御棒全挿入中 |
| 原子炉注水・除熱機能 (冷やす) | ○残留熱除去系 (B) 運転 (3/14～) ※残留熱除去系 (A) は津波の影響で使用不能 ○原子炉冷却材浄化系運転 (7/16～) [冷温停止時における代替除熱機能の確保] ○冷温停止*中 (3/14～) | ○残留熱除去系 (B) 運転 (3/14～) ※残留熱除去系 (A) は津波の影響で使用不能 ○原子炉冷却材浄化系運転 (7/17～) [冷温停止時における代替除熱機能の確保] ○冷温停止*中 (3/14～) | ○残留熱除去系 (B) 運転 (3/12～) ※残留熱除去系 (A) は津波の影響で使用不能 ○原子炉冷却材浄化系運転 (6/6～) [冷温停止時における代替除熱機能の確保] ○冷温停止*中 (3/12～) | ○残留熱除去系 (B) 運転 (3/14～) ※残留熱除去系 (A) 8/2 11:54～12:24 に試運転後、待機状態。 ○原子炉冷却材浄化系運転 (6/4～) [冷温停止時における代替除熱機能の確保] ○冷温停止*中 (3/15～) |
| 格納容器 (隔離・除熱) (冷やす&閉じこめる) | ○格納容器内での冷却材漏えいなし ○圧力抑制室の水温は通常温度(30℃程度) で安定 (3/14、100℃未滿復帰) ○格納容器バント (格納容器内の圧力を 降下させる措置) は実施なし | ○格納容器内での冷却材漏えいなし ○圧力抑制室の水温は通常温度(30℃程度) で安定 (3/14、100℃未滿復帰) ○格納容器バント (格納容器内の圧力を 降下させる措置) は実施なし | ○格納容器内での冷却材漏えいなし ○圧力抑制室の水温は通常温度(30℃程度) で安定 (地震発生以前から継続して100℃ 未滿) ○格納容器バント (格納容器内の圧力を 降下させる措置) は実施なし | ○格納容器内での冷却材漏えいなし ○圧力抑制室の水温は通常温度(30℃程度) で安定 (3/15、100℃未滿復帰) ○格納容器バント (格納容器内の圧力を 降下させる措置) は実施なし |
| 外部電源 | 受電有 | 受電有 | 受電有 | 受電有 |
| 非常用電源 | 非常用ディーゼル発電機(B) 2号機非常用ディーゼル発電機(B)から受電 3号機非常用ディーゼル発電機(B)から受電 | 非常用ディーゼル発電機(B)(H) | 非常用ディーゼル発電機(B)(H) | 非常用ディーゼル発電機(B)(H) |
| その他 異常等に関する報告 | 03/11 17:35 原災法第10条特定事象 (原子炉冷却材漏えい(格納容器圧力上昇)) →3/11 18:33 原子炉冷却材漏えいはな かったものと判断 | | | |
| | 03/11 18:33 原災法第10条特定事象 (原子炉除熱機能喪失) →3/14 1:24 残留熱除去系 (B) 起動に より復帰 | 03/11 18:33 原災法第10条特定事象 (原子炉除熱機能喪失) →3/14 7:13 残留熱除去系 (B) 起動に より復帰 | | 03/11 18:33 原災法第10条特定事象 (原子炉除熱機能喪失) →3/14 15:42 残留熱除去系 (B) 起動 により復帰 |
| | 03/12 5:22 原災法第15条「原子力緊急 事態」該当事象 (圧力抑制機能喪失) →3/14 10:15 圧力抑制室の水温が 100℃未滿となり復帰 | 03/12 5:32 原災法第15条「原子力緊急 事態」該当事象 (圧力抑制機能喪失) →3/14 15:52 圧力抑制室の水温が 100℃未滿となり復帰 | | 03/12 6:07 原災法第15条「原子力緊急 事態」該当事象 (圧力抑制機能喪失) →3/15 7:15 圧力抑制室の水温が 100℃未滿となり復帰 |
| | ○原災法第10条特定事象 (敷地境界放射線量上昇 [5 μ Sv/h]) 3/14 22:07 (モニタリングポスト [1])、3/15 0:12 (モニタリングポスト [3]) …福島第一原子力発電所の影響による。 →4/3 9:30以降、福島第二原子力発電所敷地境界における放射線量 (モニタリングポストの値) は5 μ Sv/hを下回って推移。 〈参考〉当社ホームページ：モニタリングによる計測状況： http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f2/index-j.html | | | |

*：冷温停止・・・原子炉水の温度が100℃未滿となり安定的に停止した状態。